

治療のその先にある「生きる場所」をつくる 地域に寄り添う、つくば市初の介護医療院

高齢化が進む中、「治療後に自宅へ戻れない」という課題が深刻化しています。2026年9月、いちはらメディカルグループはつくば市初の介護医療院を開設。理事長・市原琢己さんに、その役割と未来像を伺いました。



いちはらメディカルグループ
医療法人健佑会
理事長 市原 琢己さん
Takumi Ichihara

「家に帰れない人」の受け皿を、
地域につくりたかった

「高齢の独居世帯や、介護する側も
介護される側も高齢という『老老介
護』はこれからさらに増えています」
そう話すのは、いちはらメディカルグ
ループ医療法人健佑会理事長の市原
琢己さんです。

「高齢の進歩により、病気やけがから命
を取り留める人は増えています。その一
方で、治療を終えても身体機能の低下
から自宅での生活が難しく、医療的ケ
ア（喀痰吸引や点滴など）の必要性が
つくばだからこそ、
医療が集まる
必要な役割」

新設される介護医療院は、働く人に
とっても新しいフィールドです。いちは
らメディカルグループが掲げる理念は
「恕（じょ）」の精神——相手の立場に
立ち思ひやりの心で接することです。
「治療は終了」していく中、退院後の受け
入れ先が整わらず、入院生活が長引いて
しまう方が少なくありません。その結果、
本来必要な医療を受ける方の受け
入れが難しくなる場面が生じています。
介護医療院は、急性期医療と在宅介
護をつなぐ役割を果たします。」

「最新の時間に関わる仕事だからこそ、
人としての思いやりを大切にできる人
と一緒に働きたいですね」

PLAZA NEWSMAKER VOL.00

いちはら介護医療院

☎ 029-877-0170 (入所相談受付)

茨城県つくば市大曾根3681

■電話受付

【月～金曜】9:00～17:00
※土・日・祝日休み

HPはこちら▶

いちはらメディカルグループ 検索



9月開設予定

介護医療院 オープニングスタッフ 募集

看護師



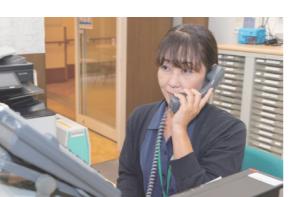
健康状態を観察し、薬の準備や
口腔ケアなどの健康管理と採血
などの医療行為を行っています。

介護職員



介護が必要な方が安心・安全
な生活が送れるように見守りや
サポートをお願いしています。

施設ケアマネ 兼 介護職



担当介護士や看護師と協力し、
利用者にどのようなサービスが
適しているか考え、提案します。

管理栄養士



食事のカロリーや栄養成分を計
算して、食事する方の健康状態や
体調に合わせた献立を作ります。

理学・作業療法士、言語聴覚士 薬剤師も同時募集中

Interview

利用者の食事の様子や日々の会話から、体調や
小さな変化を見逃さないよう心がけています。必要に
応じて食事内容を調整し、「おいしく食べられる」こと
を大切にしています。工夫した食事で食べる量
が増え、表情が明るくなる瞬間に、この仕事の
やりがいを感じます。

■管理栄養士 渡部さん

採用に関するお問い合わせ
ご応募はこちら▶▶▶



ら、施設にも入所できないケースは少
なくありません。家族が遠方に住んで
いたり、介護を担う人が高齢であつた
りと、退院後の生活に不安を抱える人
は年々増えています。

が大きな特徴です。

「従来の療養病棟では、どうしても、治

療が終わった後、ただ寝て過ごす環境

になりました。介護医療院では、

リハビリを行い、日中は身体を起こして

過ごすなど、できるだけ日常に近い時

間を大切にします」

食事や会話、季節を感じる行事など、

生活の質を保つことも重視されます。

単なる医療の継続ではなく、「その人の
暮らし」を支える場所であることが、

介護医療院の大きな役割です。

最期まで「その人らしく」
過ごせる環境を

介護医療院は、看取りまで対応する
施設もあります。市原理事長が大
切にしているのは、入所者本人だけで
なく「家族との時間」です。
「残された時間を家族と共有し、寝た
きりではなく、可能な範囲で生活に近
い形を保ちなが、穏やかに過ごして
ほしいですね」。

医療と心の両面から、本人と家族に
とっても納得のいく時間を過ごせる環
境づくりを目指しています。

地域の人たちに寄り添った「いちはらメディカルグループ」

